

「こおりやまの米」通信

平成26年6月20日



郡山市
イメージキャラクター
「がくとくん」

編集：郡山市

JA 郡山市 (Tel. 921-0724)

NOSAI 郡山田村 (Tel. 933-3307)

県中農林事務所農業振興普及部 (Tel. 935-1310)

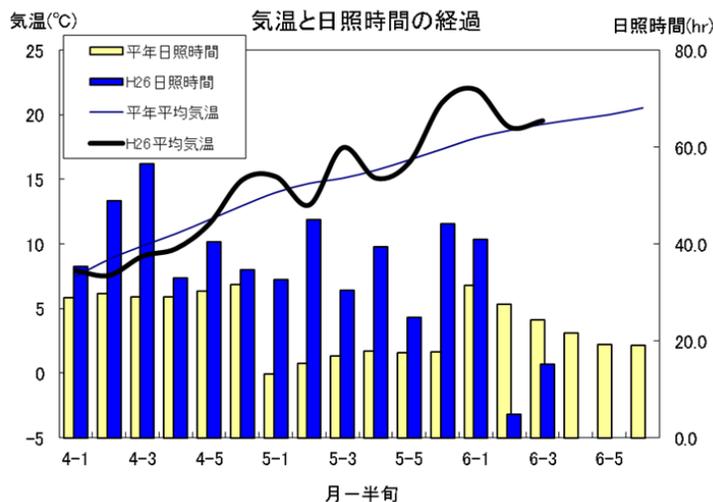
発行：郡山市農作物生産対策協議会 (郡山市農業振興課 Tel. 924-3761)

Vol.5 「除草・防除・中干し」次回は7月上旬

最新号はJA各支店窓口に備え付けてあります。

1 生育概況

- (1) 6月20日の24ほ場の調査結果では、平坦部は草丈が平年に比べやや長く、茎数はコシヒカリは平年並、その他の品種は多くなっています。湖南地区は草丈がやや長く、茎数は多くなっています。
- (2) イネミズゾウムシやイネドロオイムシの発生は、平年に比べ少ない状況です。



6月20日 生育調査結果

品種 (調査地点)	年次	草丈 (cm)	茎数(本)		葉齢
			株あたり	m ² あたり	
コシヒカリ (三穂田)	本年	32.2	15.2	245	7.8
	平年比(%)・差	85	62	54	+0.4
コシヒカリ (田村)	本年	51.5	36.6	780	6.8
	平年比(%)・差	127	150	158	+0.2
ひとめぼれ (安積)	本年	36.8	19.2	300	5.4
	平年比(%)・差	123	125	101	-0.3
天のつぶ (喜久田)	本年	46.9	21.1	458	8.1
	前年比(%)・差	104	113	151	+1.2
あきたこまち (湖南)	本年	29.8	16.4	313	8.0
	平年比(%)・差	105	174	173	+0.9

2 天気予報

【1か月(6/21~7/20)予報】(6月19日 仙台管区气象台発表)

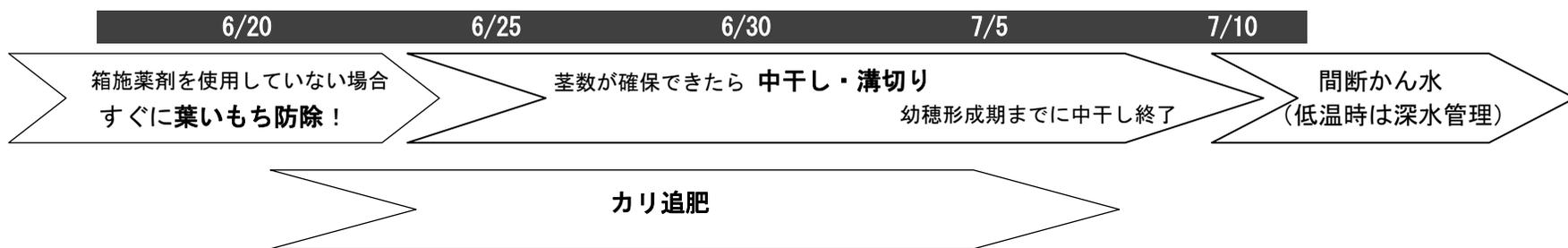
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。週別の気温は、1週目は平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、平年並または低い確率ともに40%です。

【3か月予報】(5月23日 仙台管区气象台発表)

7月 平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みです。気温は、平年並または低い確率ともに40%です。

8月 天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。気温は、平年並または低い確率ともに40%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

3 作業のめやす 放射性セシウムによる稲の汚染を防ぐため、倒伏防止の徹底を！！



4 葉いもち 穂いもち防除には葉いもち防除が重要です！

葉いもちに感染しやすい時期になりました。置き苗は直ちに処分し、葉いもちの予防に努めましょう。

・まだ防除していない水田

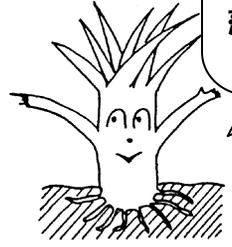
オリゼメート粒剤等を、**葉いもち防除のため、すぐに散布**しましょう。予防防除は地区全体で取り組むと効果が高まります。

すでに発生してしまったら、粉剤・液剤等で防除し、拡大を防ぎましょう。

・移植時にウィン、Dr. オリゼ、デジタルコラトップ等の箱粒剤を使用した水田

7月中～下旬に水面施用剤(粒剤)で、穂いもち防除を行ってください。

*中干しは土壌の条件、生育状態に合わせて実施を！
溝切りと併用すると落水が早いよ！



5 水管理 倒伏させないために、しっかり中干しを！

- ① 茎数が少ないほ場では、引き続き浅水管理を行い、分けつを促進しましょう。
- ② 株当たり20本程度の分けつ（有効茎）を確保したら中干しを行い、無効茎を抑えましょう。
- ③ あわせて、溝切り（4～5m間隔）を行い、中干しを促進するとともに、その後の水管理を容易にして秋作業に備えましょう。
- ④ 中干しは、幼穂形成期前までに終了し、その後は間断かん水により根を健全に保ちましょう。低温の恐れがある場合は深水にしましょう。

中干しの効果

- | | |
|-----------------------------|----------|
| (1)有機酸や硫化水素などの水溶性の有害物質の排除 | } 根ぐされ防止 |
| (2)土中に酸素を供給することによって土の還元をなくす | |
| (3)土壌窒素の発現を一時的に抑制し稲の生育を調節 | } 倒伏防止 |
| (4)土壌を固くする | |
- ↓ 無効茎の抑制
稲が開張して受光体勢が向上します

中干しは田面に亀裂が入り足跡がつく程度！

- | | |
|-------------|----------|
| 生ワラ施用田、粘質土壌 | ⇒ 強めの中干し |
| 生育過剰田 | |
| 地力のない水田 | ⇒ 間断かん水で |
| 砂質土壌 | (弱めの中干し) |

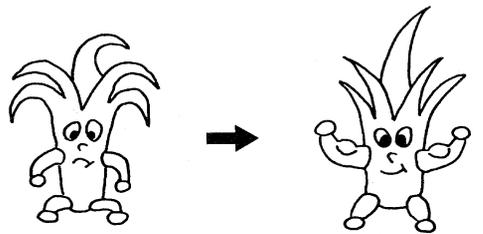
6 カリ追肥 倒伏させないために窒素を控え、カリ追肥で稲を丈夫に！

稲体強化等を目的として、ケイ酸カリ等を追肥する場合は、出穂 40～35 日前(6月下旬～7月始め)にカリの追肥を行って、茎と根を丈夫にします。

ケイ酸カリ（出穂 40 日前） 20 kg/10a：でき過ぎた田、コシヒカリに有効
塩化カリ（出穂 35 日前） 7 kg/10a：一般田

～追肥の効果～

- ① 稲の体を強くする。(いもち病等にかかりにくくする。倒伏防止)
- ② 根の働きが良くなる。(下葉の枯れ上がりを防止→登熟向上)
- ③ 籾殻を大きくしたり、籾の奇形が少なくなる。
- ④ 穂数、籾数、千粒重の増加が期待できる。



7 放射性セシウムの吸収抑制対策

- (1) 塩化カリの基肥施用を行い、必要に応じてケイ酸カリ等のカリ資材の追肥を行っても、食味や品質に影響はありません。
- (2) 吸収抑制対策のために配布している塩化カリ 20 kg/10a は、最も吸収抑制効果の高い基肥での施用を基本としています。万が一、基肥で十分な量を施用していない場合は、速やかに全量散布してください。

8 雑草防除 ホタルイ・アゼナ対策

雑草が残った場合は、下表を参考に防除してください。

雑草の種類	イネの茎数	除草剤	使用時期	収穫前日数	使用上の注意
広葉雑草 (ホタルイ、アゼナ)だけ 残った田	茎数がまだ確保できていない田	バサグラン粒剤(ナトリウム塩) 3～4kg/10a	移植後15～50日	60日前まで	落水し、尻水口をしめて散布する
	株20本以上確保した田	グラスジンMナトリウム粒剤 3kg/10a	有効分けつ終止期～幼穂形成期前	60日前まで	
広葉とヒエの両方 残った田	茎数の確保に関係なく使用できる ただしノビエ5葉期まで	クリンチャーバス ME 液剤 1000ml/10a (70～100L/10a)	移植後15日～ノビエ5葉期	50日前まで	湛水散布。多年生雑草は生育段階によって効果にフレがあるので、必ず適期に散布する
		フォローアップ1キロ粒剤 1kg/10a	移植後20日～ノビエ5葉期	60日前まで	

※グラスジンMナトリウム粒剤は分けつを止める作用があるので、茎数を確保してから使しましょう。

この資料は、平成26年6月9日現在の農業登録情報に基づいて作成しています。

農薬（特に粉剤・液剤）を使用する際は、近隣作物に飛散しないように注意してください。
！！平成26年度福島県農薬危害防止運動展開中(6/10～9/10)！！！！